

## 「普天間飛行場代替施設建設事業に係る技術検討会」第2回 主な検討内容

検討項目		検討内容
設計条件	<ul style="list-style-type: none"><li>・地盤条件</li><li>・波浪条件</li><li>・上記以外の設計条件</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地盤の圧密特性及び護岸の設計に用いる設計波高の設定を提示</li><li>・上記以外の設計条件は、第1回技術検討会において提示済</li></ul>
	地盤の液状化特性	地盤の液状化の予測・判定の結果を提示
護岸設計	C-1～C-3護岸及び護岸（係船機能付）	<ul style="list-style-type: none"><li>・各護岸の設計工区及び検討断面位置の設定を提示</li><li>・第1回技術検討会で候補として提示された護岸の構造型式を比較・検討し提示</li></ul>
	A護岸	<ul style="list-style-type: none"><li>・護岸の各工区の標準断面（地盤改良含む）を提示</li></ul>

## 設計条件

## 設計条件

項目	内容
設計潮位 (※)	第 1 回技術検討会において提示済
残留水位 (R. W. L.) (※)	
許容越波流量 (※)	
上載荷重 (※)	
設計対象地震動(レベル 1 地震動) (※)	
土質条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地盤の圧密特性 (沈下に係る条件) を提示</li> <li>・ その他は、第 1 回技術検討会において提示済</li> </ul>
設計波高	護岸の設計に用いる設計波高を提示 (地盤改良による海底地盤の変化等を考慮)
設計供用期間 (※)	第 1 回技術検討会において提示済

(※) 現埋立承認申請と同様

## 地盤の液状化特性

現地盤については、技術基準<sup>(※)</sup>の液状化の予測・判定方法等により、液状化しないとの判定を提示

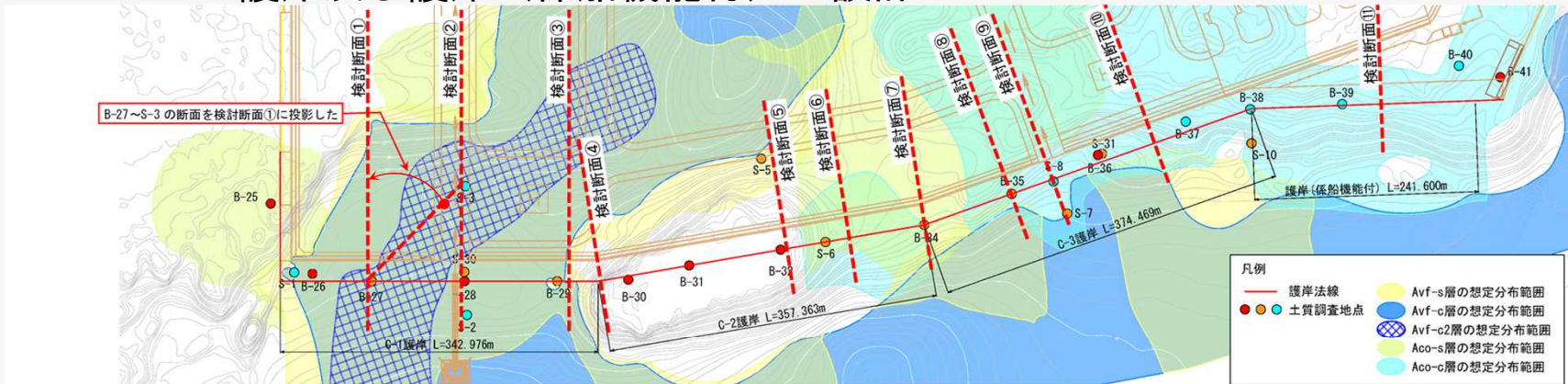
(※) 「港湾の施設の技術上の基準・同解説」 (平成30年5月)

# 護岸設計

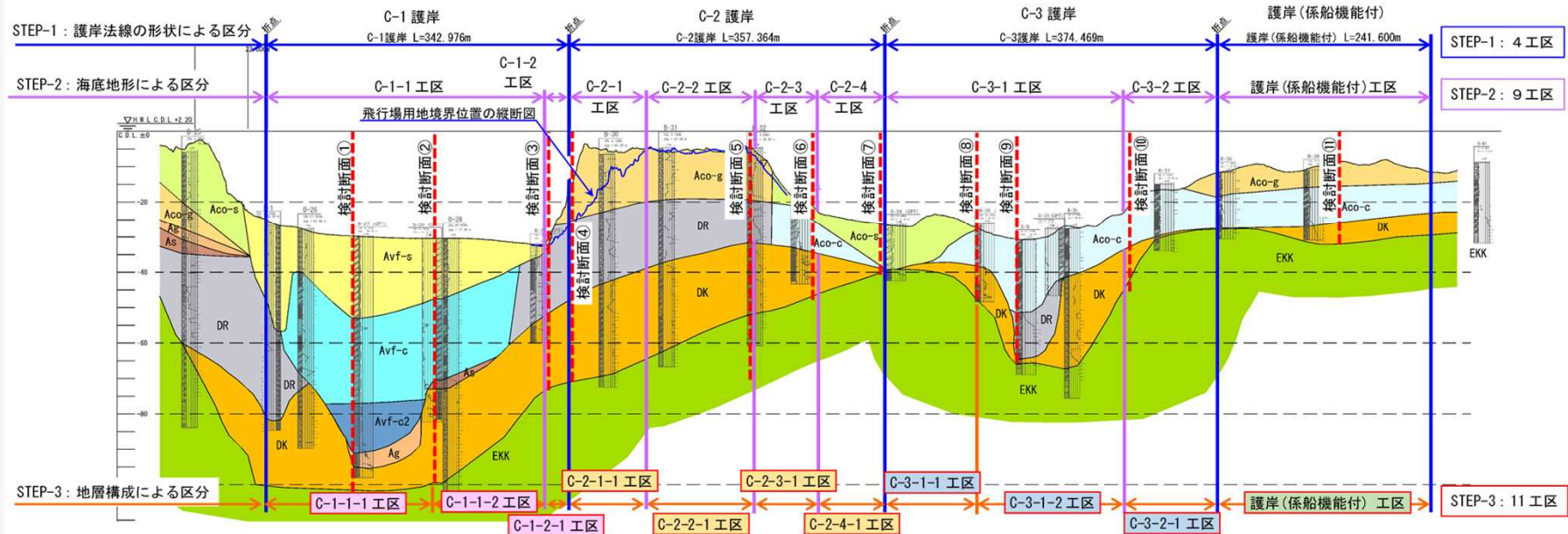
## 設計工区等

■護岸法線の形状、護岸法線位置における海底地形及び地層構成を基に設計工区を提示するとともに、設計工区ごとに検討を行う断面の位置を提示

### ✓ C-1 ~ C-3 護岸及び護岸（係船機能付）の設計



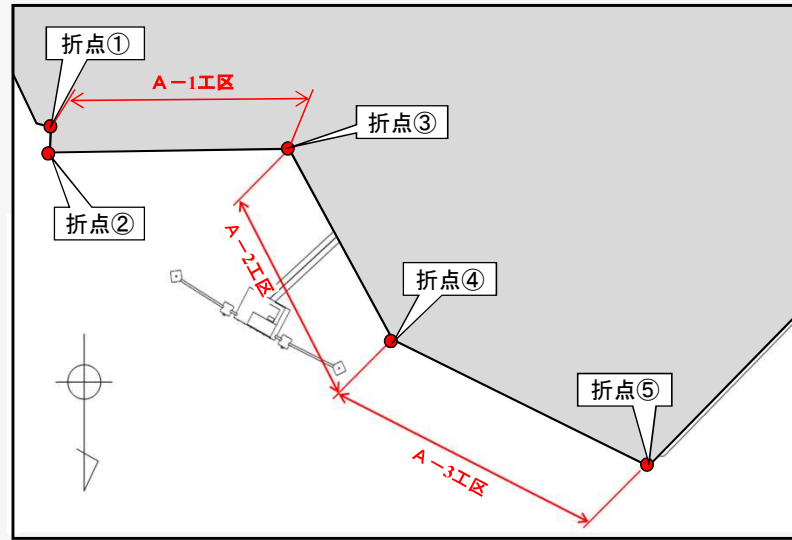
C-1~C-3護岸及び護岸（係船機能付）平面図



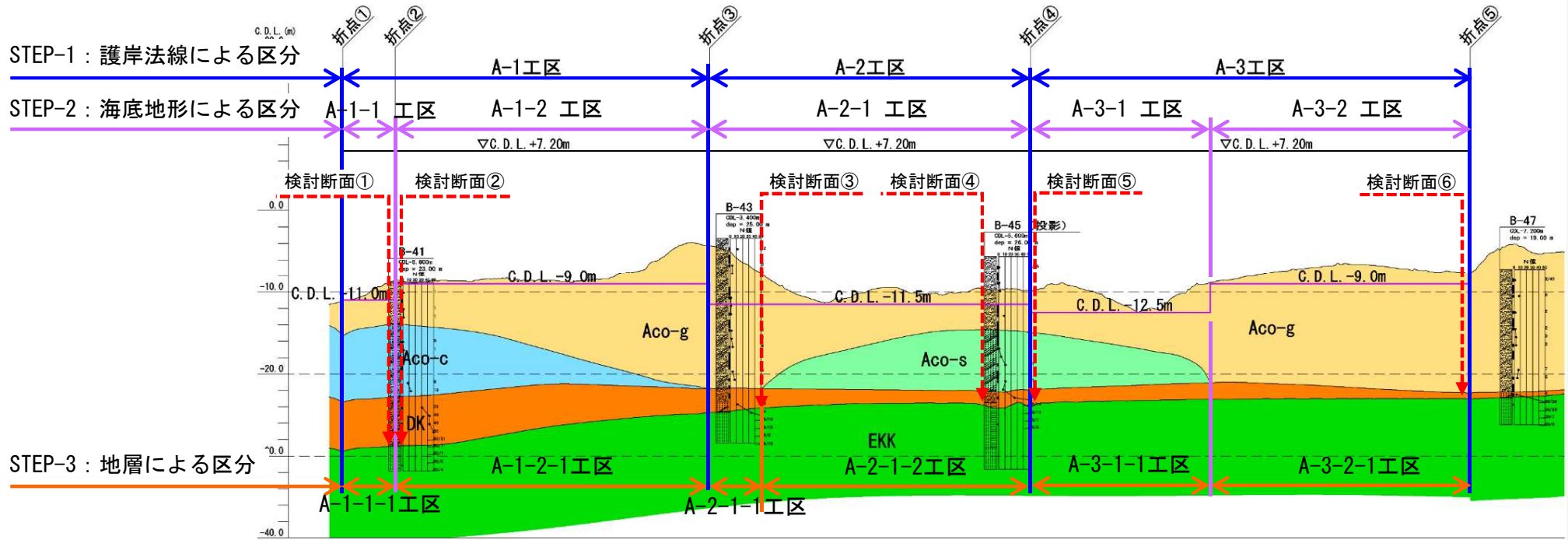
C-1~C-3護岸及び護岸（係船機能付）縦断図

# 護岸設計

## ✓ A護岸の設計



A護岸平面図



A護岸縦断面図

# 護岸設計

## 護岸構造型式

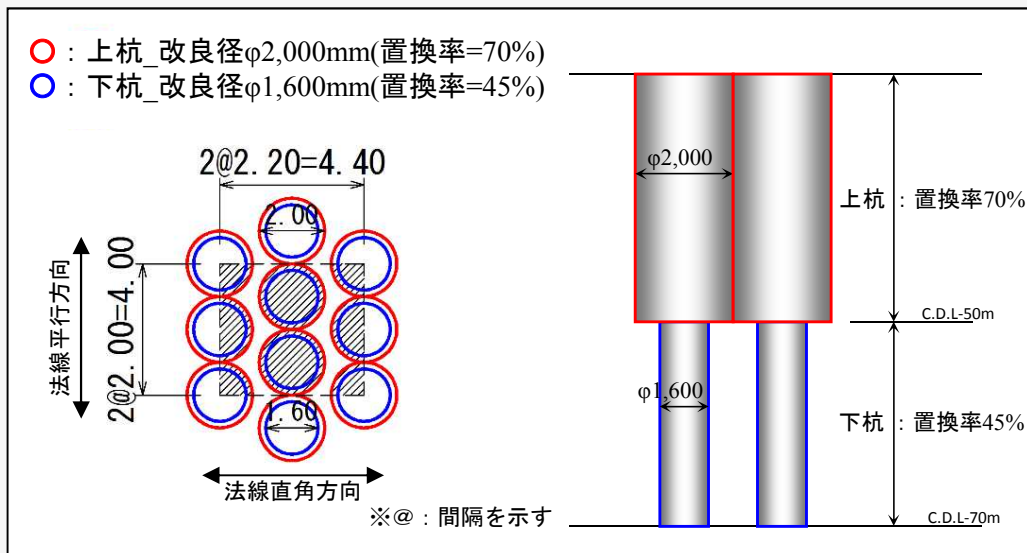
■ 構造特性や施工方法等を比較・検討し、護岸構造を提示

区分	C-1~C-3 護岸及び護岸 (係船機能付)	A 護岸
護岸 構造 型式	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">スリットケーソン式</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">二重鋼管矢板式</p>

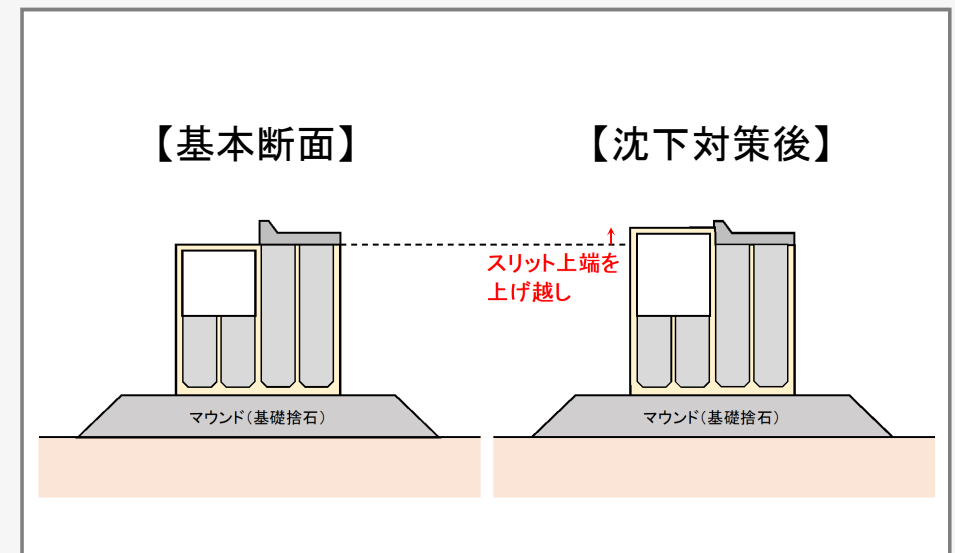
## 設計断面

- 設計条件及び断面諸元を設定し、壁体及び地盤の安定性に関する性能照査を行い、設計工区ごとに標準断面を提示
- 護岸の安定性に必要となる地盤改良工法は、サンドコンパクションパイル（SCP）工法とし、C. D. L-50mまでは、改良径 $\phi 2000\text{mm}$ （置換率70%）、C. D. L-70mまでは、改良径 $\phi 1600\text{mm}$ （置換率45%）とすることを提示
- スリットケーソン式護岸については、沈下後も消波機能が確保できるような断面を提示
- 地盤改良範囲を最小化するため、一部の護岸背後に軽量盛土を使用することを提示

サンドコンパクションパイル工法詳細図



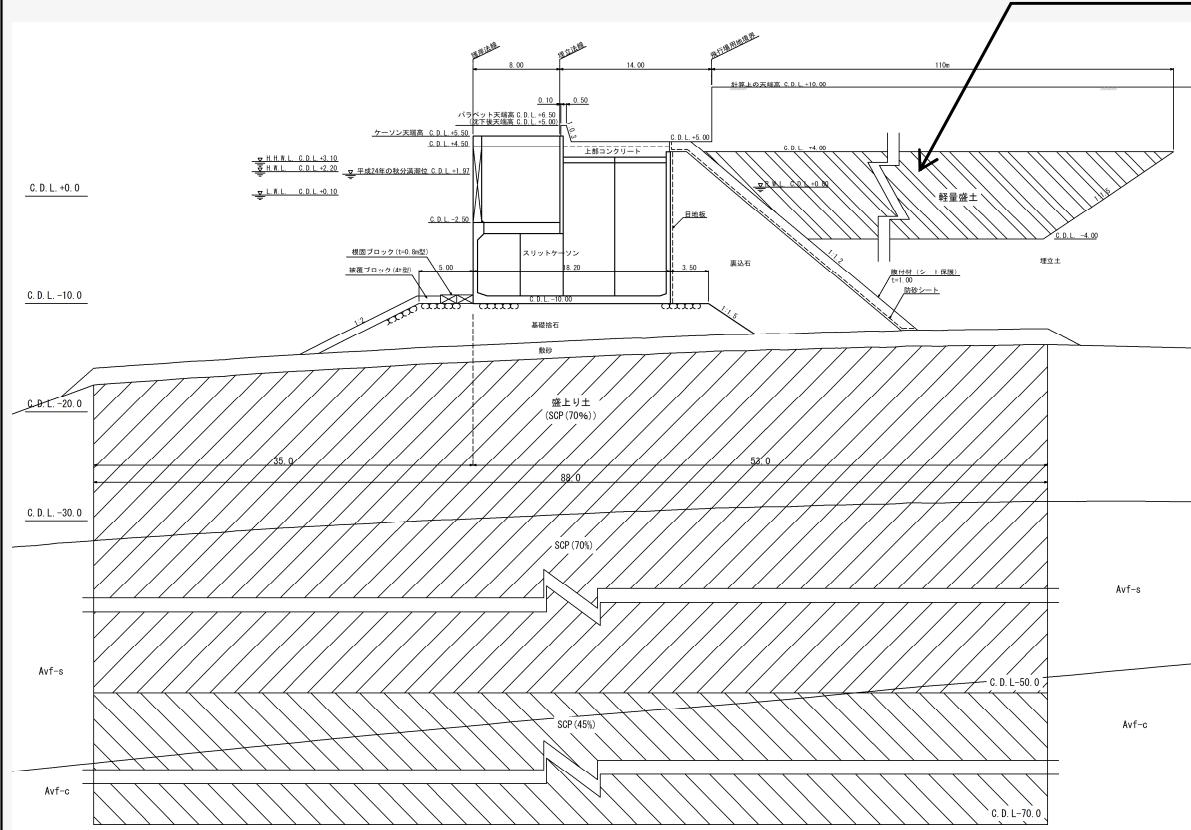
スリットケーソン式護岸沈下対策イメージ図



# 護岸設計

(例) 標準断面図 (C-1-1-1工区)

軽量盛土



(例) 標準断面図 (A-1-1工区)

